

オーストラリア金融政策（2020年11月）

予想を上回る追加緩和パッケージを発表

2020年11月4日

利下げに加えて1,000億豪ドルの量的緩和で金利は全般に低下

11月3日（現地）、RBA（オーストラリア準備銀行）は追加緩和策を発表しました。具体的には、①政策金利の0.25%から0.10%への引き下げ、②3年国債利回り目標の0.25%から0.10%への引き下げ、③TFF（タム物資金調達ファシリティ）金利の0.25%から0.10%への引き下げ、④為替決済残高の付利の0.10%から0%への引き下げ、⑤年限が5～10年の国債・準政府債を今後6カ月間で1,000億豪ドル買い入れる量的緩和の導入です。①～③はおおむね市場参加者の想定通りでしたが、④は想定よりも低く、⑤は想定を上回るペースです。また、政策金利のフォワード・ガイダンスは「実際のインフレ率が目標の2～3%内で持続的に推移するまで利上げしない」と実績ベースの表現に修正され、更にRBAの経済見通しに基づけば「少なくとも今後3年は利上げしない予想」であることが付言されました。発表を受けて金利は全般に低下しました。豪ドルは、発表直後こそ主要通貨に対して下落しましたが、すぐに反発しました。

更なる追加緩和策について、ロウ総裁は会見で、マイナス金利に否定的な見解を示しましたが、必要に応じて量的緩和の規模を拡大させる可能性に言及しました。当面、追加緩和の可能性は低いと思われませんが、この期待が長期金利の上昇を抑制する要因になりそうです。今年4月から9月の豪ドル上昇は、オーストラリアの長期金利が米国などに比べて高位で推移していたことが一因であったため、今回の量的緩和導入による長期金利の押し下げや更なる追加緩和への期待が豪ドルの上値を抑える要因になると考えています。一方、オーストラリアは新型コロナウイルスの感染第2波の封じ込めに成功し、堅調な景気回復が期待されることに加え、貿易黒字など実需の資金フローが豪ドルを下支えする構図になると想定しています。

政策金利と3年国債利回り



※政策金利は決定日ベース

(出所) ブルームバーグ

豪米の10年国債利回りと豪ドル（対米ドル）



(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。